

1. 調査報告概要表

作成日平成20年8月21日

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入) 3 4 7 0 1 0 4 3 6 9
法人名	社会福祉法人 広島光明学園
事業所名	グループホーム 光明牛田
所在地	広島市東区牛田旭1丁目14-26 (電 話) 082 - 211 - 3040
評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4 - 46 - 9
訪問調査日	平成20年8月19日

【情報提供票より】(20年 7月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 11 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 8 人, 非常勤 1人, 常勤換算 4.1 人

(2) 建物概要

建物構造	造り 4 階建ての 2 階 ~ 3 階部分
------	--------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円 昼食 円 夕食 円 おやつ 円 または1日当たり 1,500 円		

(4) 利用者の概要(7月 31日現在)

利用者人数	9 名	男性 名	女性 9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.7 歳	最低 81 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	碓井内科胃腸科医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

街の中心部に建設されたマンションの一部を改装されたもので交通の便は良く、利用者の家族の訪問は多い。その際に利用者一人ひとりの現状報告が行なわれる。又、その他の入居者については電話で現状報告が行なわれている。近くに小学校があり、絶えず子供の声が聞こえて、家庭の雰囲気がする。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 事業主体は地域密着型を地で行く方向であるが、運営推進会議に町内会の参加が見られないのは淋しい。利用者の出席もある模範的な会合なので、是非出席させてほしい。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) これが地域密着型のグループホームだと目標を定めて真剣に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 事業所の行事計画、地域行事への参加等、2ヶ月に1回の会合が有意義であるように取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の面会の時、直接管理者に話すことができる雰囲気があり、その反応は事業所の運営に反映されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 経営母体が地域に大きな影響力を持っているだけにその一事業所として位置づけられており、今一つの細かい連携が保たれれば最高である。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気を大切に 地域との交流を心掛けよう 明るい笑顔を絶やさないように、の3つの理念を掲げ、地域に根ざしたグループホーム作りに専念している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は朝、夕の引継ぎの時この理念を全員で唱和している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣近所には、こちらから声をかけている。交通量も多い地域だけに隣近所との付き合いは大切にしたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は評価の意義をよく理解しており、具体的な改善点があれば真しに取り組む姿勢が見られた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の運営に問題は無く、むしろ利用者の出席もあるなど、理想的な会合を持っている。	○	出席メンバーに町内会側の出席があればもっと良い会合になる。

グループホーム光明牛田

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	経営母体の光明学園が市町村との連携にあたり、事業所はむしろ運営推進会議の盛り上げをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来所された時、必ず現状報告を行なっている。又、来られない家族には一週間に一回電話報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所された時、意見、不満を話される機会があり、運営に反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	充分に考慮した上で異動を行なっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を月2回行っており、外部研修も積極的に日勤扱いとし、経費も事業所負担としている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内3ヶ所の交流はあるが他事業所との交流は今のところない。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得をし、要求しているものが何であるかを職員の方で受け止めて、家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族的な雰囲気を大切にしながら、職員と利用者との関係を身近に感じられるように努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの個々の持ち味が発揮できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、職員が十分な話し合いを行ない、個人ファイルを作り、計画を立て、実行できるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを通じ、見直しを行なっている。ケアプランの際は、本人、家族の希望を聞き入れて作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の意向は固定したものでなく常に変化しており、その要望に向き合って柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族が希望される医療機関での受診を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族とよく話し合っており、かかりつけ医の状況説明も細かく報告している。急変した場合は、すぐ対応して頂けるように医療機関と密に連携を計っている。	○	重度化に伴う意志確認書を作り、事業所が対応し得る最大のケアのあり方について方針を持たれるとよい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングの時に、職員の意識向上を図ると共に、日々の関わりを点検し利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重して、出来るだけ個別性のある支援を行なっている。		

グループホーム光明牛田

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の健康状態に合わせて柔らかいご飯であったり、刻み食の提供があり、職員も同じテーブルで食事し、時々手助けをしている。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回～3回の入浴で本人の希望に合わせて入浴できる。入浴できない時、清拭、足拭をする。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活のリズムに基づき、洗濯物をたたんだり、掃除をしたりしている。又、ベランダにある植物に水を遣るなど楽しんでおられる。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候により、近所にある学校周辺の散歩に出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	4階建ての2、3階部分が改築されてグループホームになっており、モニター監視及びエレベーターには電子ロックがされている。	○	交通量も多く、今の建物であればやむを得ない。
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回、防災訓練を行ない、どこに避難するかを職員が把握し、誘導できるようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮し、食事摂取量、水分摂取量を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは明るく、植物、テレビ、ソファ、エレクトーンを置き、壁には絵や写真を飾り、寛げるスペースがある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた物を各自の居室に入れ自宅と同じ雰囲気作りをして居心地よく暮らしている。		